



SDGsプロジェクト



13

気候変動に
具体的な対策を



目標 13

気候変動に具体的な対策を

目標13は「気候変動に具体的な対策を」です。気候変動はあらゆる国に影響を与え、経済の混乱や人々のコミュニティ、国に莫大なコストを強いています。

また、世界の平均気温は1880年から2012年の間に0.85℃上昇しています。日本でも100年あたりで1.30℃のペースで気温が上昇し、降水量も増加していることが分かっています。その原因は二酸化炭素をはじめとする、温室効果ガスが増えすぎたことによる地球温暖化だと考えられています。

地球温暖化に対して、どのような対策が考えられているのか、その一例を紹介します。

参考：JCCCA(全国地球温暖化防止活動推進センター公式サイト)

地球温暖化が引き起こす問題

集中豪雨

農作物の不作、洪水、土砂崩れなどの原因となる



地球温暖化

二酸化炭素などの温室効果ガスが、太陽光に温められた地球が放出する熱の一部を吸収してしまうことで起きる



台風・ハリケーン

暴風雨が多大な被害をもたらす

干ばつ

水不足や農作物の不作の原因となる



海面上昇

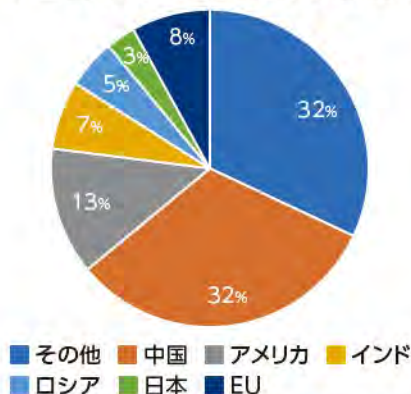
低地が水没してしまう

気候変動の解決に向けて ～カーボンニュートラル～

カーボンニュートラルとは ▶ 温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることです。

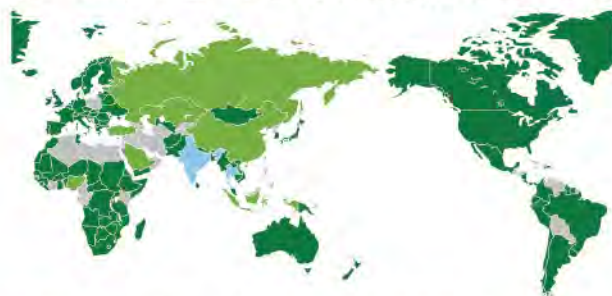
2015年に採択されたパリ協定では、産業革命以前とくらべて世界の平均気温上昇を2℃未満に抑えることを目標としています。加えて、平均気温上昇1.5℃未満に抑える努力をすることが盛り込まれました。すべての国が2020年以降の温室効果ガス削減目標の国連への提出を義務づけられ、各国は自主的に目標を定め、5年ごとに報告・レビューすることとなっています。

国別の二酸化炭素排出量の割合(2022)



出展：IEA(2022)「GHG Emissions from Energy」

カーボンニュートラルを表明した国・地域



- 2050年までのカーボンニュートラル表明国 (日本を含め145か国)
- 2060年までのカーボンニュートラル表明国
- 2070年までのカーボンニュートラル表明国

出展：経済産業省 資源エネルギー庁



恩納村は、行政・村民・事業者が一体となった、自然環境に優しい地域づくりを目指し、2018年に「サンゴの村宣言」をしました。

サンゴの村宣言は、サンゴの保全を中心にSDGsが掲げる、環境・経済・社会の相乗効果で、村内の様々な課題を解決しようとするものです。

この取り組みは、2019年に内閣府から「SDGs未来都市」にも選定されました。今回の展示は、恩納村で取り組まれている活動の周知及び関連する書籍を紹介しています。

会場 恩納村文化情報センター 期間 10月12日(木)～11月15日(水)



恩納村のSDGs
取組情報

お問い合わせ：企画課 ☎966-1201